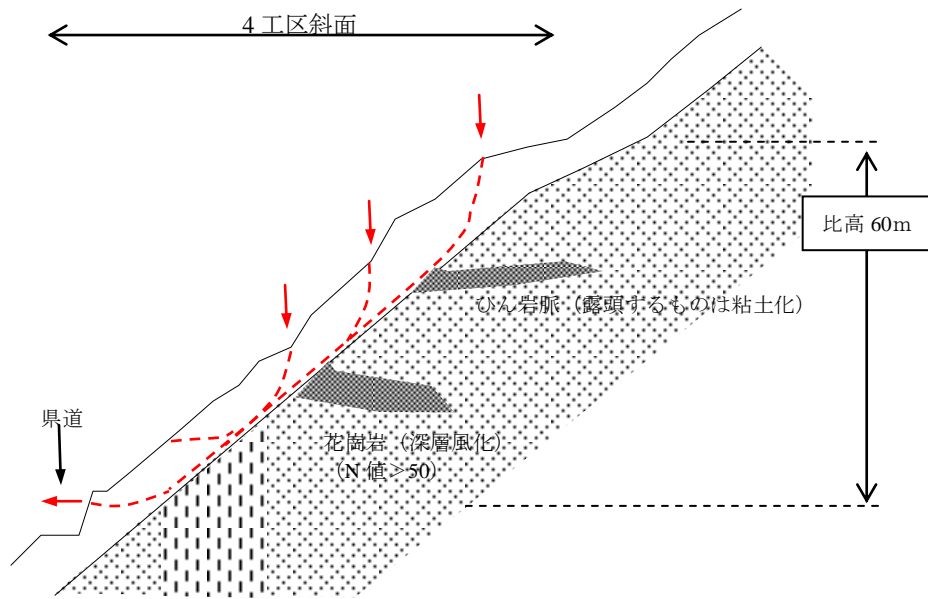


アンカーネット工の紹介

【施工現場状況】



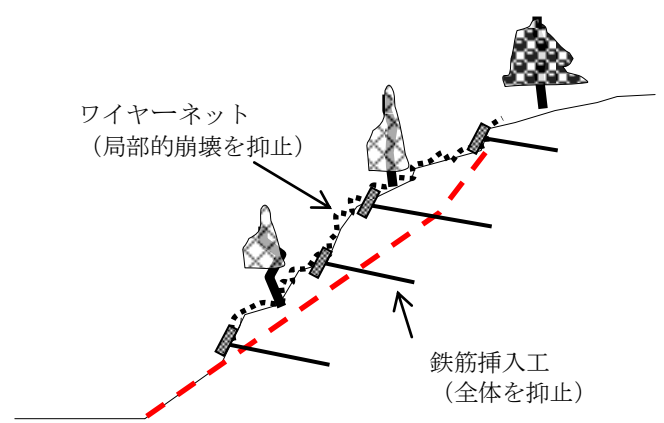
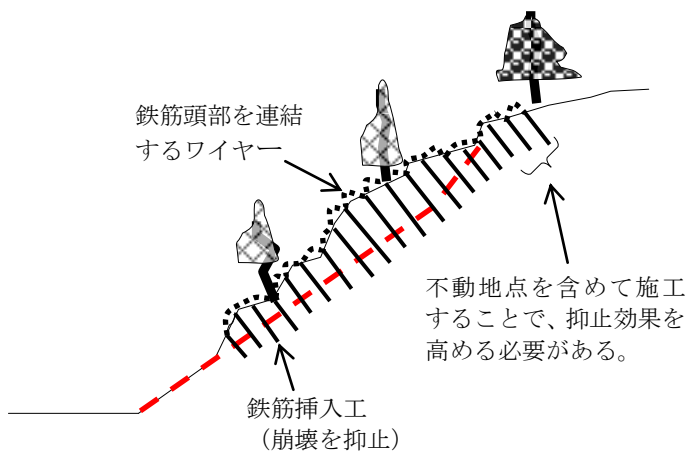
崩壊模式断面図



崩落崖



中腹部押しだし



鉄筋挿入工による対策

- ・ 抑止対象土塊の層厚 3mまで
- ・ 予防対策 (土塊の乱れが大きい場合は抑止機能が働かない)

アンカー工ネット工による対策

【アンカーネット工の理論的裏付け】

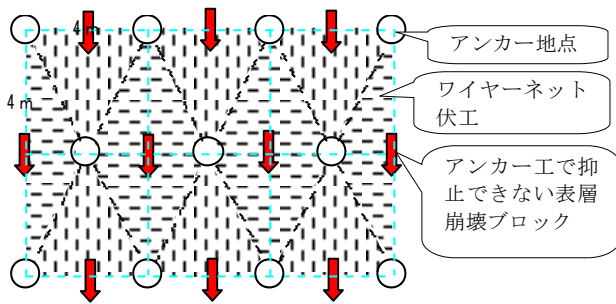


図-4.2 アンカー工に規制される表層崩壊ブロック

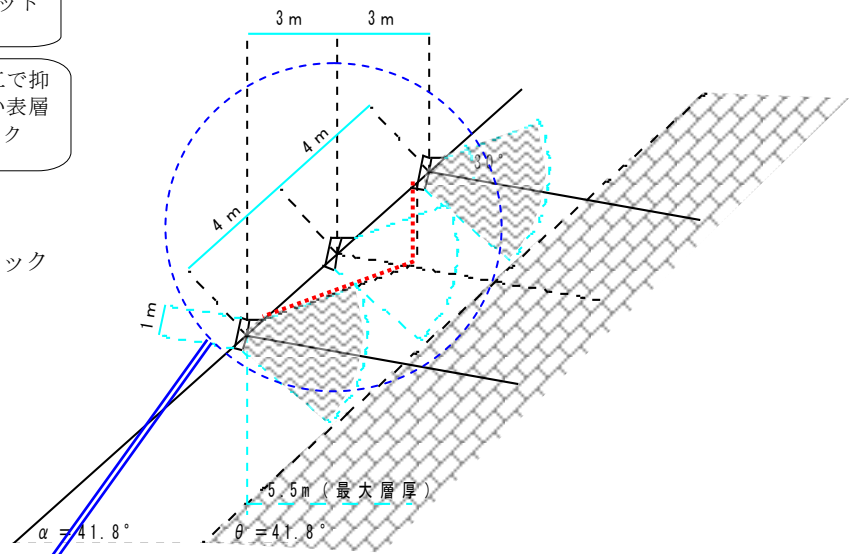


図-4.3 アンカー工による抑止範囲

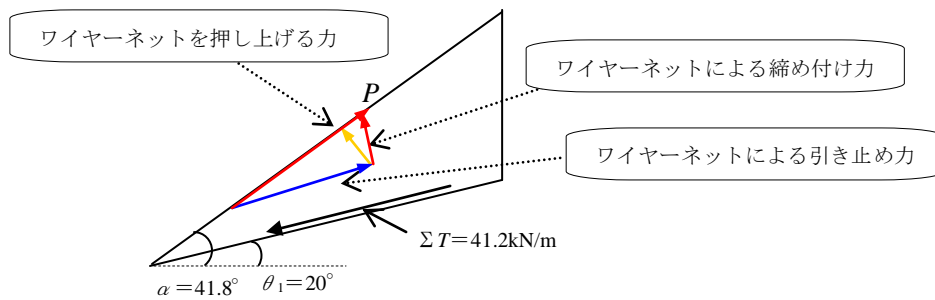
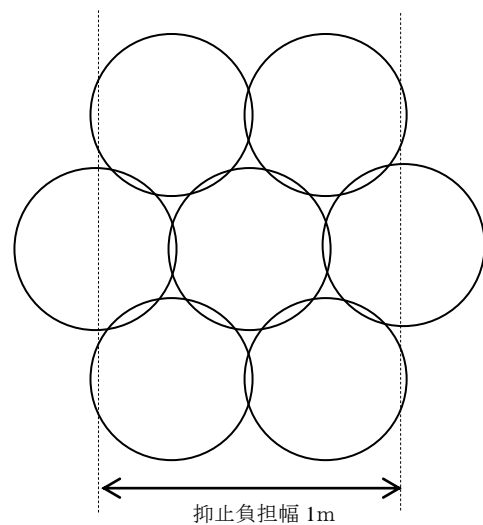
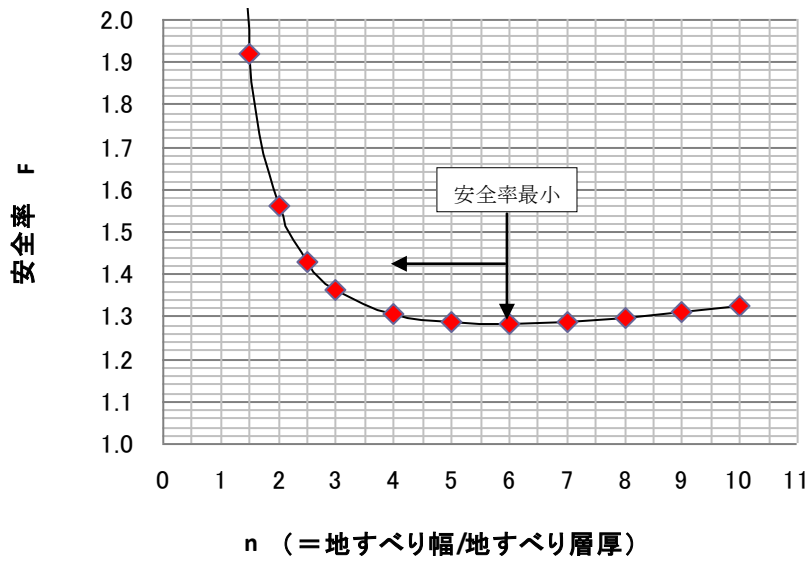


図-4.7 ワイヤーネットによる抑止力 (図-5 より)

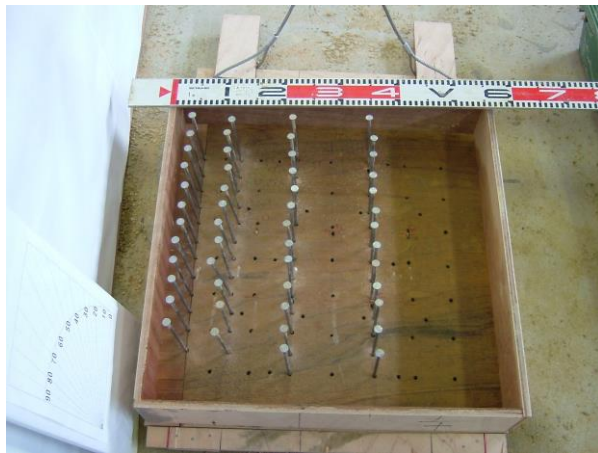


ワイヤーネット配置図 (リング径 50cm の場合)
(1m幅当たりワイヤー4本による抑止力を発揮)



移動土塊を横断方向に
縁切りすることの効果

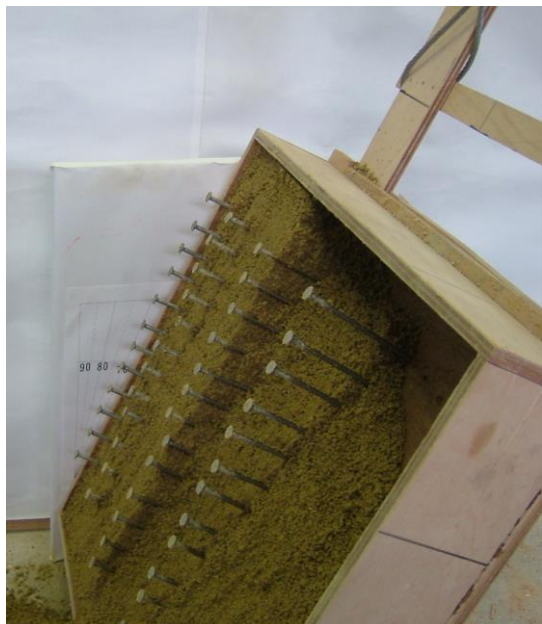
参考図—3
地すべり層厚比 n と安全率



参考写真—1 実験装置
 ○内枠 56×56cm, 高さ 8.5cm
 ○幅方向の規制間隔 3, 6, 9, 12, 18cm
 ○試料: マサ土 45kgf ($\gamma = 17\text{kN/m}^3$)



参考写真—2 傾斜 60°
○18cm 幅区間で最初に崩落



参考写真—3 傾斜 65°
○12cm 幅区間で崩落

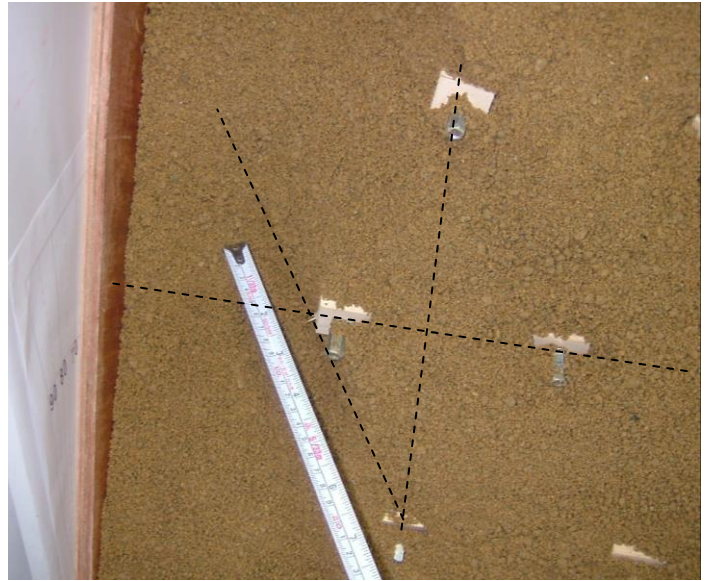


参考写真—4 傾斜 75°
○9cm 幅区間で崩落

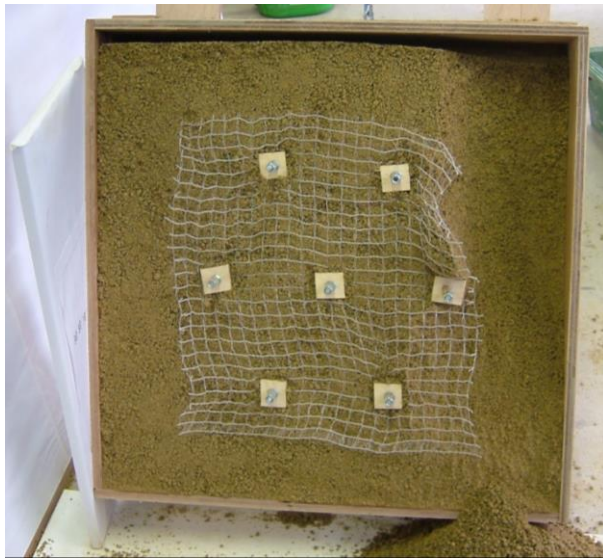
受圧版による抑止範囲



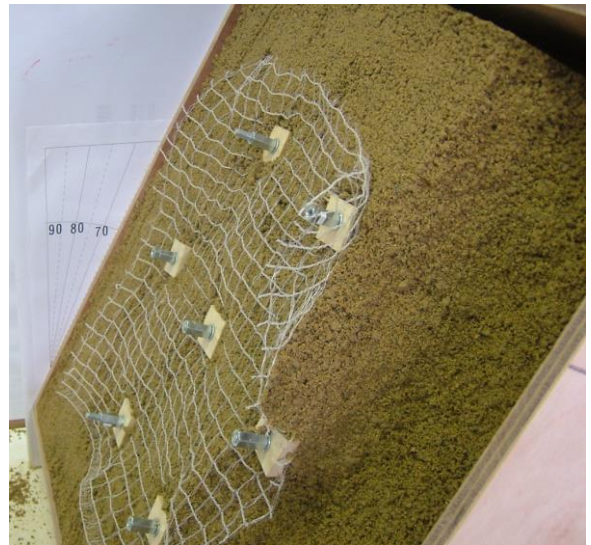
写真一七 マサ土における受圧版の荷重分散角
(傾斜 65° で崩落)



写真一八 同左, 打設方向から約 40° の方向に分散



ネット併用による抑止効果



写真一五 同左, 断面



落石対策用ネット併用箇所



緊張前